

専門日本語教育関係機関紹介

日韓共同理工系学部留学生事業の韓国内予備教育

金重燮（慶熙大学校国際教育院）

酒勾康裕（近畿大学語学教育部）

慶熙大学校国際教育院について

慶熙大学校は韓国ソウル特別市と京畿道（水原・光陵）に三つのキャンパスがあり、20以上の学部で30,000人余の学生が通う総合私立大学である。

「文化世界の創造」の校是の下、海外との交流を活発に行ない、56の国・地域にある304校と姉妹協定を結び（2008年11月現在）、韓国内で最も国際化の進んだ大学と言われている。

このような中、国際教育院では韓国から留学する学生と韓国へ留学に来る学生の教育に積極的に取り組んでいる。教育内容は語学（英語・日本語・中国語・スペイン語・韓国語等）を中心に行なっているが、外国文化や韓国文化等、留学に関連した異文化理解のための教育も行なっている。

日韓共同理工系学部留学生事業

日韓首脳の合意の下、2000年より始まった日韓共同理工系学部留学生事業は韓国内にて6ヶ月、日本の各受け入れ大学にて6ヶ月の予備教育を経た後、4年間（予備教育を含めると5年間）日韓両政府の国費留学生としての待遇を受けるプログラムである。韓国内予備教育の期間中、教育対象である学生は韓国内の高校を卒業したばかりの学生がほとんどである。

韓国内予備教育が行なわれている慶熙大学校国際教育院はこれまで9年間韓国政府（教育科学技術部国立国際教育院）からの委託機関として選定され、毎年新たな試みも交えながら常に教育内容の充実を目指してきた。

韓国内予備教育の内容

予備教育は一年間という限られた期間で日本の理工系学部にて留学生活を送るだけの日本語能力の向上や専門教科の深化学習は勿論、外国で生活を行うにあたっての心構え等を教育プログラムの中に組み込まな

ければならない。更に教育対象の殆どが二十歳前後の学生ということもあり、時に学生の両親との面談等も行ないながら教育を行なっている。

6ヶ月間（3月～8月）の主な教育科目及び時間数は次の通りである。

日本語：約400時間

専門（数学・物理・化学）：各科目 約23時間

英語（TOEFL・英会話）：約33時間

教養（日本事情・日韓文化比較等）：約80時間

文化体験（日本人学生との交流等）：約70時間

日本語については3月の予備教育開始時点でゼロレベルにある学生でも初級終了以上のレベルを目標としており、高校等で学んだことのある既習者は中級以上を目標としている。専門科目の時間数を更に確保すべきであるが、6ヶ月後には日本で留学生活を始めることからどうしても日本語の方に時間が割かれてしまう。しかし、専門科目に日本語で書かれた教科書を使って授業を行う等、日本語と専門科目の接点を模索しつつ、統合教育を常に意識して行っており、今後も内容の充実を図る予定である。また、ある問題（数学等）に対して正解のみを追求していたこれまでの姿勢から、過程の重要さも強調しつつ、論理的な説明ができるように意識を向けさせる必要もあり、言語・専門科目のみだけではない教育プログラムの運営を目指している。

今後の予備教育のあり方

事業名に「日韓共同～」とある以上、教育現場においても引き続き日本の予備教育機関と常に連携を持ち続け、また同時にこれまで卒業した多くの先輩学生の追跡調査等も通じながら、予備教育内容の更なる充実を目指していく予定である。

金重燮 jskim@khu.ac.kr

酒勾康裕 sakawa@kindai.ac.jp